

ゆい ちゅうぶ

3

2024
vol.88



第30回 A day in the life of ○○○

～病院で活躍する職員の日～

新生児内科 の一日

- 当院は「総合周産期母子医療センター」のため、中北部地区の周産期医療を担っています。NICUには年間400件の入院があり、早産児、先天奇形、具合の悪い正期産児などの診療を行っています。
- 新生児治療は産科管理にも影響されるため、母児にとってベストな治療ができるよう産科とも連携しながら診療しています。産科と新生児内科の緊密な連携により、新生児医療の成績向上につながっています。



新生児内科 医師
新嘉喜 映佳

当科の理念

- 1) 母児に寄り添った医療を提供します
- 2) 担当指導医が責任を持って研修医を教育します
- 3) チーム医療：看護師、心理士、産科、コメディカルとの連携
- 4) 育児支援：妊娠中からNICU退院後の育児支援まで、地域とも連携しながら安心して子育てできるようサポートしています

7:30～ 周産期カンファレンス(週1)

産科と新生児内科の合同カンファレンスで、ハイリスク患者の情報共有を行っています。

9:00～ 総合回診(週1)

看護師、心理士と一緒に回診し、多角的視点で患者さんの状況を把握します。よりよい治療が提供できるよう皆で話し合っています。



13:30～ 1ヶ月健診

15:00

NICUを研修中の初期研修医が、指導医と一緒に、当院で出生した正常新生児の1ヶ月健診を行います。研修医教育の場でもあります。



新生児内科専攻医
白川先生

その他 日中業務

- 帝王切開の立会
研修医の先生と一緒に立会います。
- 正常新生児室の回診
- 入院処置など



初期研修1年目
菅谷先生

15:30 夕方回診

16:15 業務終了

救急救命士 紹介

私たち救急救命士は昨年12月より沖縄県立中部病院救急救命センターへ配属となりました。医師・看護師のタスクシフト・シェアの一環で、現在はホットライン応需をはじめ診療補助や一部救急救命処置を実施しています。皆様のご協力もあり軽症から重症まで、様々な場面で活動できとてもやりがいを感じています。

今後は、院外活動においても患者搬送や災害活動等の仕組みを整え、病院から地域全体に貢献できる救命士像を作っていきたいと思います。

ぜひとも、オレンジスクラブをお見かけの際は、お気軽にお声かけください。今後とも、よろしくをお願いします。



(左から) 松井さん、秋吉さん、知名さん



pick up! DMAT活動報告

うるま市防災フェア

摂食嚥下チーム紹介

A day in the life of... ～新生児内科～

救急救命士の紹介

表紙 救急車-当院への搬送時の様子



DMAT活動報告



令和6年1月1日皆が新年をお祝いしている最中、本年度最大の災害が起こった。能登地震である。被災当初より医療支援班として多くのDMAT隊員に要請がかかり支援に入っていた。九州沖縄地区へのDMATチーム派遣要請

がかかる前に全国のDMATロジスティックチーム(本部支援に入るロジスティックチーム研修(通称ロジ研)修了者)に派遣要請がかかり、中部病院スタッフの協力を得て勤務調整させていただき、石川支援(1/17~1/24)に入ることとなった。

約1週間の滞在で2つの大きな業務に関わることが出来た。(金沢以南活動拠点本部本部長補佐と一時待機ステーション本部長)以下多くの役割をこなした石川スポーツセンター内に設置された一時待機ステーション(通称いつとき)本部長業務を中心に報告する。

一時待機ステーションの運用方針は被災地内施設入所者の2次福祉避難所や被災地外施設入所までのつなぎをする場所としてまさに一時的に待機する場所として設置された。主な役割としては、被災地内DMAT活動拠点本部と連携しスムーズな被災地外の避難先として機能すること、各職種連携して避難してきた入所者の情報管理及び健康保健福祉の管理を行うこと、上位本部と連携し広域搬送も含め出口問題を調整すること、その医療健康福祉支援、搬送支援として滞在DMAT約15チームほどの運用を行った。

またDMAT組織体の本部長としての業務を行うだけでなく、スポーツセンター内ミーティングでは県職員、DWAT、JRAT、県看護師教会、栄養士協会、薬剤師協会、DHEATなど各組織体リーダーとのミーティングを行い、まさに災害医療



懐かしの長嶺先生と



スポーツセンター内全体会議の様子 DMATチームの代表として参加

救急科 医長 木全 俊介 医師

コーディネーターとしての業務もこなさせていただいた。

滞在中に、46人の搬入、86人の搬出、滞在者は最大で160床中147床埋めるような現場であったが無事任務を引き継がせていただいた。また、OCH研修医43期生(自分が44期です)の長嶺先生が厚生労働省の職員として同施設に派遣され再会することもできましたことも報告させていただきます。

このような貴重な経験をすることが出来たのは一重に他救急スタッフなどの協力なしでは出来ませんでした。この場をお借りして感謝申し上げご報告とさせていただきます。ありがとうございました!!



配属されたDMATチームとの集合写真

中部病院 施設管理技士室長の宮平さんもDMATロジスティックチームとして2/1~2/7まで石川県の穴水町保健医療福祉調整本部の副本部長(ロジリーダー)として活躍されたこともご報告させていただきます!市の役場会議に出席しライフラインの復旧状態の確認、上位本部とのライフライン支援の確認及び穴水総合病院にER支援のためのDMAT派遣隊の調整など行われました!

- DWAT: 災害時の福祉・心理的支援を担う民間のチーム
- JRAT: リハビリテーションの観点から被災者を支援する組織
- DHEAT: 厚生労働省によって組織される災害医療チーム
- OCH: 沖縄県立中部病院



宮平 亮さん

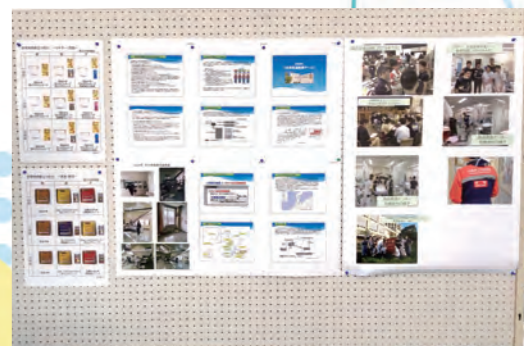
穴水町医療保健福祉調整本部にて

うるま市防災フェア

令和6年2月11日(日)、市民の防災に関する意識を高め、自助、共助の精神を醸成することを目的として第1回うるま市防災フェアが開催されました。

当院も防災フェアにブース出展を行い、市民関係部署・団体との交流を通じて災害医療の周知と当院の認知度向上を図りました。開会式では、玉城病院長が挨拶を行い中部病院の役割や取り組みについて説明しました。

ご来訪いただいた市民の方々から、中部病院の取り組みや医師との交流を通じて新たな知識が得られてよかった、設置されていた中部病院の書籍を手取ることで歴史を知ることができ地域医療の大切さを学べてよかった、など多数の感想をいただきました。



天候にも恵まれ、第1回うるま市防災フェアは盛況のうちに終えることができました。ご参加いただいた市民のみなさん、ご協力いただいた関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。今後も地域との協力を深め、安心・安全な医療を提供できるよう努力していきたく思います。



摂食嚥下チーム 紹介

摂食・嚥下障害看護認定看護師
安次嶺 理沙 / 岡 唯

誤嚥性肺炎の発症リスクにおいて、摂食嚥下障害は大きな要因の一つです。そのため誤嚥性肺炎を減少させる手段として、「口腔ケア」や「口腔機能訓練」の重要性、「地域との連携を含む多職種連携の取り組み強化」が指摘されています。

当院でも、誤嚥性肺炎や摂食嚥下障害を抱える患者様は多く、言語聴覚士や病棟看護師による嚥下評価、嚥下訓練が日々行われていますが、誤嚥性肺炎による再入院も少なくありません。

食べたい想いに寄り添い、サポートしていくために2023年9月より摂食・嚥下障害看護認定看護師を中心に、医師、言語聴覚士、栄養士などの構成による摂食嚥下チームを発足致しました。

「食べたいけど、よくむせる」「飲み込みにくい」「とろみはどの程度?」などといった「食」に関して困った事はありませんか?ぜひ私達チームをご活用下さい。電話相談もお待ちしています。

【チームメンバー】



チーム活動内容

- ① 嚥下内視鏡検査(VE)による嚥下機能検査、評価
- ② 嚥下訓練の選択
- ③ 食事形態などの工夫
- ④ 口腔ケア
- ⑤ 病棟看護師への指導や在宅における関係職種との連携など
- ⑥ 家族指導

【回診の様子】

毎週水曜日 9時30分~ 各病棟ベッドサイド



① 担当STより患者紹介、介入依頼内容の説明



② 嚥下内視鏡検査実施



③ とろみ水やゼリーなどを使用し嚥下評価、摂取時のポジショニングや体勢なども評価



④ 嚥下内視鏡検査後、カンファレンス、カルテ記録 病棟看護師へ結果報告と注意点や工夫点を指導